

## 平成21年3月期 第1四半期決算短信

平成20年8月13日

上場会社名 STEILAR C. K. M  
 コード番号 2673 URL <http://www.steilar.com/company/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 橋本 勝司  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 加藤 和弘  
 四半期報告書提出予定日 平成20年8月14日

上場取引所 JQ

TEL 03-5326-8880

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成21年3月期第1四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	1,338	—	△27	—	△29	—	△38	—
20年3月期第1四半期	1,632	3.8	4	—	△3	—	△9	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第1四半期	△8.61	—
20年3月期第1四半期	△2.15	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
21年3月期第1四半期	3,326	—	622	—	18.5	—	137.55	
20年3月期	3,620	—	675	—	18.5	—	149.31	

(参考) 自己資本 21年3月期第1四半期 616百万円 20年3月期 669百万円

#### 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	—	—	6.50	6.50
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	—	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
第2四半期連結累計期間	2,662	—	32	—	20	—	17	—	—	3.79
通期	5,636	△17.9	214	—	190	482.8	184	—	—	41.05

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、【定性的情報・財務諸表等】「4. その他」をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、【定性的情報・財務諸表等】「4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第1四半期 5,124,000株 20年3月期 5,124,000株

② 期末自己株式数 21年3月期第1四半期 641,300株 20年3月期 641,300株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第1四半期 4,482,700株 20年3月期第1四半期 4,478,700株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により本資料数値と異なる場合があります。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

## 【定性的情報・財務諸表等】

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、原油価格、原材料価格の高騰や円高などにより景況感は急速に悪化しております。また、個人消費は消費者物価の上昇や雇用所得の伸び悩みにより先行きの不透明感から、節約や消費意欲の低下に伴う買い控えなど消費の停滞が続いております。

当社が属する、通信販売業界におきましては、インターネット通販や携帯通販企業の伸びが顕著であり、総合カタログ通販企業を取巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような経済状況のもとで、当社グループ（当社及び連結子会社）は、活動をしてまいりました。

なお、事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①通販小売事業

##### カタログ部門

編集制作面では、誌面効率の観点からページ当たりの掲載商品数を増やし、商品の露出割合の増加を図りました。その一方で、厳選した顧客リストにのみカタログを発行することで発行部数を抑え、制作費と売上の費用対効果が最も高くなるよう設定の見直しを行いました。

また、安全性・信頼性の高い日本製の商品のみを紹介する「ツムギ」を創刊し、商品の原産国を重要視するよう変化した顧客への対応を進めております。

商品開発では、独自性強化や他社との差別化を目的とし、コレクター品、美術品など希少価値の高い商材の発掘を継続すると共に、オリジナルブランド「こてめん堂」を始め、当社独自のブランディングシリーズの拡充を図りました。

さらに、欧米からの商品の独自輸入を拡大する一方で、安心・安全を追求した国内産食品の販売や伝統技術、先端技術などを背景とした日本製のこだわり商品を強化し、幅広い顧客の要望に応えられる商品設定を行いました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間のカタログ部門の売上高は660百万円（前年同期比21.1%減）となりました。

##### 事業部門（頒布部門）

化粧品事業においては、顧客のファン化、継続性強化を目的とした新ブランドの立ち上げとそれに伴う新商品開発を進めました。健康事業については、安心と健康増進を目的としたオリジナルサプリメントの開発を進めました。また、休刊していたカタログも復刊いたしました。

また、購入後のフォローアップシステム・リピート率向上とドロップ率の低下を達成するため、前期に立ち上げた専門セクションの活動を継続しております。リピート性の高いオリジナル商品開発が進んだことで、リピート事業部での本格的なフォローアップ体制が稼働し始めました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の事業部門の売上高は182百万円（前年同期比28.3%減）となりました。

##### メディア部門

メディア部門における新たな挑戦といたしましては、新聞媒体への広告出稿に力を注ぎ、スポーツ紙から地方紙、更には全国紙へとステップアップさせ、新規顧客の獲得及び利益の拡大を図りました。また、新たにテレビ媒体への商品を卸す準備に取り組み、第2四半期への足がかりとしました。

しかしながら、他社が保有する会員へのダイレクトメールを販促費の削減のために減少させたことにより売上が減少しており、また、新聞媒体への広告による新規顧客の獲得が計画通りに進められず、第2四半期以降の課題となりました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間のメディア部門の売上高は157百万円（前年同期比41.0%減）となりました。

##### 通信メディア部門

自社サイトである「夢隊WEB」では、コンバージョンを重視した広告展開を更に推し進めました。また、昨年11月に実施したサイトリニューアル後の課題出しと検証を行い、今後の購入率アップを図るために、コンテンツの充実・サイトリニューアルを実施していく体制の整備及び準備を行いました。

今後は、コンバージョン・効率を維持しながら売上を拡大していくための、施策のスピードアップ化を課題として取り組んでまいります。

外部ショッピングモールサイトでは、既存ショッピングモールの顧客動線の見直し、商品掲載のスピード化、掲載商品の増加並びに当社独自の商品の広告による露出増など打ち手を増やし、売上及び利益の拡大に努めました。しかし、広告と商品・時期がかみ合わず、全体を牽引するヒット商品を生み出すことができませんでした。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の通信メディア部門の売上高は88百万円（前年同期比26.0%減）となりました。

#### その他部門

前期に組織したビジネスソリューション事業部は、引き続き新たな広告・マーケティングのビジネスドメインの構築を進め、B to Bビジネスの事業化を推進しております。

コールセンター業務を行っている株式会社ホット・コミュニケーションは、電話及びネット受注時においてインターネット事業や健康・化粧品事業と連動し、顧客のリピート継続注文を増やすために、販売促進活動を積極的に行いました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間のその他部門の売上高は23百万円（前年同期比232.2%増）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の通販小売事業の売上高は1,111百万円（前年同期比25.1%減）となり、営業利益は35百万円となりました。

#### ②不動産事業

当第1四半期連結会計期間においては、販売用不動産1物件の売却を行いました。また、保有する不動産の賃貸を引き続き行っております。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の不動産事業の売上高は82百万円（前年同期比94.3%増）となり、営業利益は9百万円となりました。

#### ③その他事業

株式会社S・Rプロモーションは、歌手・俳優などのタレントマネジメント業務を行っております。コンサートイベント事業もより規模の大きな会場での興行が成功したことで集客が増加し、興行収益の拡大につながりました。

グリストラップ浄化装置等のレンタル事業においては、新規の設備の取得は行わず、既存の物件のレンタルを継続しております。

ライフステージ株式会社は、介護施設を運営し、デイサービスを行っております。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間のその他事業の売上高は144百万円（前年同期比37.1%増）となり、営業利益は8百万円となりました。

以上の結果、当社グループの当第1四半期連結会計期間の売上高は1,338百万円（前年同期比18.0%減）、営業損失は27百万円（前年同期は営業利益4百万円）、経常損失は29百万円（前年同期は経常損失3百万円）、四半期純損失は38百万円（前年同期は四半期純損失9百万円）となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、3,326百万円となり、前連結会計年度末比294百万円の減少となりました。その主な要因は、借入返済及び新規の貸し付けなどにより、現金及び預金が300百万円減少したことであり、ます。

純資産は、622百万円となり、前連結会計年度末比53百万円の減少となりました。その主な要因は、四半期純損失38百万円及び剰余金の配当29百万円であります。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき予想しました結果、平成20年5月15日に発表した業績予想値に変更はありません。

なお、実際の業績につきましては、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表に特有の会計処理の適用

##### イ. 簡便な会計処理

	当第1四半期連結会計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)
1. 棚卸資産の評価方法	当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

ロ. 四半期連結財務諸表に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	343,546	643,719
売掛金	611,473	591,459
商品	235,933	190,512
販売用不動産	249,650	307,273
貯蔵品	34,386	33,874
その他	269,429	164,149
貸倒引当金	△36,027	△39,601
流動資産合計	1,708,391	1,891,386
固定資産		
有形固定資産		
建物	648,436	644,782
減価償却累計額	△74,086	△69,358
建物(純額)	574,350	575,424
車両運搬具	22,069	22,069
減価償却累計額	△18,260	△17,896
車両運搬具(純額)	3,808	4,172
工具、器具及び備品	46,402	52,249
減価償却累計額	△29,309	△30,936
減損損失累計額	△3,218	△6,334
工具、器具及び備品(純額)	13,873	14,978
機械及び装置	365,945	372,354
減価償却累計額	△124,317	△111,610
機械及び装置(純額)	241,627	260,743
土地	248,855	248,855
有形固定資産合計	1,082,516	1,104,175
無形固定資産		
のれん	19,731	20,368
温泉権	55,510	55,510
その他	25,902	20,000
無形固定資産合計	101,144	95,879
投資その他の資産		
投資有価証券	206,390	196,505
長期貸付金	113,079	113,983
長期預金	150,000	250,000
その他	138,609	142,775
貸倒引当金	△116,638	△116,838
投資損失引当金	△57,000	△57,000
投資その他の資産合計	434,441	529,426
固定資産合計	1,618,102	1,729,481
資産合計	3,326,494	3,620,868

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	663,568	717,668
1年内償還予定の社債	255,000	255,000
短期借入金	20,000	20,000
1年内返済予定の長期借入金	468,684	503,664
未払金	162,962	190,038
返品調整引当金	5,242	5,721
ポイント引当金	32,121	28,198
リース解約損失引当金	11,529	13,532
その他	107,840	105,966
流動負債合計	1,726,947	1,839,788
固定負債		
社債	157,500	187,500
長期借入金	793,939	891,125
その他	25,872	27,179
固定負債合計	977,311	1,105,804
負債合計	2,704,259	2,945,593
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	368,850	368,850
資本剰余金	362,086	362,086
利益剰余金	117,156	184,905
自己株式	△221,232	△221,232
株主資本合計	626,860	694,608
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△7,934	△17,060
繰延ヘッジ損益	△2,313	△8,250
評価・換算差額等合計	△10,247	△25,310
少数株主持分	5,622	5,976
純資産合計	622,234	675,274
負債純資産合計	3,326,494	3,620,868

(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)
売上高	1,338,611
売上原価	737,339
売上総利益	601,271
販売費及び一般管理費	628,567
営業損失(△)	△27,295
営業外収益	
受取利息	706
受取配当金	306
業務受託手数料	4,090
その他	4,357
営業外収益合計	9,460
営業外費用	
支払利息	10,471
その他	1,449
営業外費用合計	11,920
経常損失(△)	△29,755
特別利益	
固定資産売却益	1,231
貸倒引当金戻入額	410
特別利益合計	1,641
特別損失	
固定資産除却損	4,877
リース解約損失引当金繰入額	1,463
解約違約金	4,194
特別損失合計	10,535
税金等調整前四半期純損失(△)	△38,650
法人税、住民税及び事業税	315
法人税等合計	315
少数株主損失(△)	△353
四半期純損失(△)	△38,611

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第1四半期連結累計期間  
(自 平成20年4月1日  
至 平成20年6月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失 (△)	△38,650
減価償却費	22,123
のれん償却額	636
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△3,774
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△478
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	3,923
受取利息及び受取配当金	△1,012
支払利息	10,471
為替差損益 (△は益)	△513
有形固定資産売却損益 (△は益)	△1,231
固定資産除却損	4,877
売上債権の増減額 (△は増加)	△20,013
たな卸資産の増減額 (△は増加)	11,690
仕入債務の増減額 (△は減少)	△51,865
未払金の増減額 (△は減少)	△29,046
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△4,052
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△4,061
その他	1,848
小計	△99,130
利息及び配当金の受取額	1,113
利息の支払額	△9,719
法人税等の支払額	△1,723
法人税等の還付額	529
その他の支出	△299
営業活動によるキャッシュ・フロー	△109,228
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△1,601
定期預金の払戻による収入	97,006
有形固定資産の取得による支出	△2,040
有形固定資産の売却による収入	378
無形固定資産の取得による支出	△7,232
貸付けによる支出	△103,000
貸付金の回収による収入	4,904
預り保証金の返還による支出	△670
預り保証金の受入による収入	863
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,392



(単位：千円)

当第1四半期連結累計期間  
(自 平成20年4月1日  
至 平成20年6月30日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△132,166
社債の償還による支出	△30,000
配当金の支払額	△18,299
財務活動によるキャッシュ・フロー	△180,465
現金及び現金同等物に係る換算差額	513
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△300,573
現金及び現金同等物の期首残高	642,619
現金及び現金同等物の四半期末残高	342,046

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）

	通販小売事業 (千円)	不動産事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,111,565	82,876	144,168	1,338,611	—	1,338,611
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,111,565	82,876	144,168	1,338,611	—	1,338,611
営業利益又は営業損失 (△)	35,836	9,158	8,708	53,703	(80,999)	△27,295

(注) 1. 事業区分の方法は、商品又はサービスの種類並びに販売形態によっております。

2. 各区分に属する主要な商品及び事業内容

事業区分	主要商品及び事業内容
通販小売事業	雑貨、洋品、文具、化粧品、貴金属、美術工芸品、電気器具、家庭用品、家具、美容健康器具、食品等
不動産事業	不動産の賃貸、不動産の売買業
その他事業	タレントの育成及びマネージメント業、居宅介護サービス事業、人材派遣事業、グリストラップ浄化装置のレンタル業

【所在地別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

当第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前四半期にかかる財務諸表

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

前第1四半期連結累計期間(平成19年4月1日～6月30日)

(単位:百万円)

科 目	前年同四半期 (平成20年3月期 第1四半期)
	金 額
I 売上高	1,632
II 売上原価	829
売上総利益	802
III 販売費及び一般管理費	798
営業利益	4
IV 営業外収益	8
V 営業外費用	16
経常損失	△3
VI 特別利益	18
VII 特別損失	22
税金等調整前四半期純損失	△7
法人税、住民税及び事業税	1
法人税等調整額	0
少数株主利益	0
四半期純損失	△9